

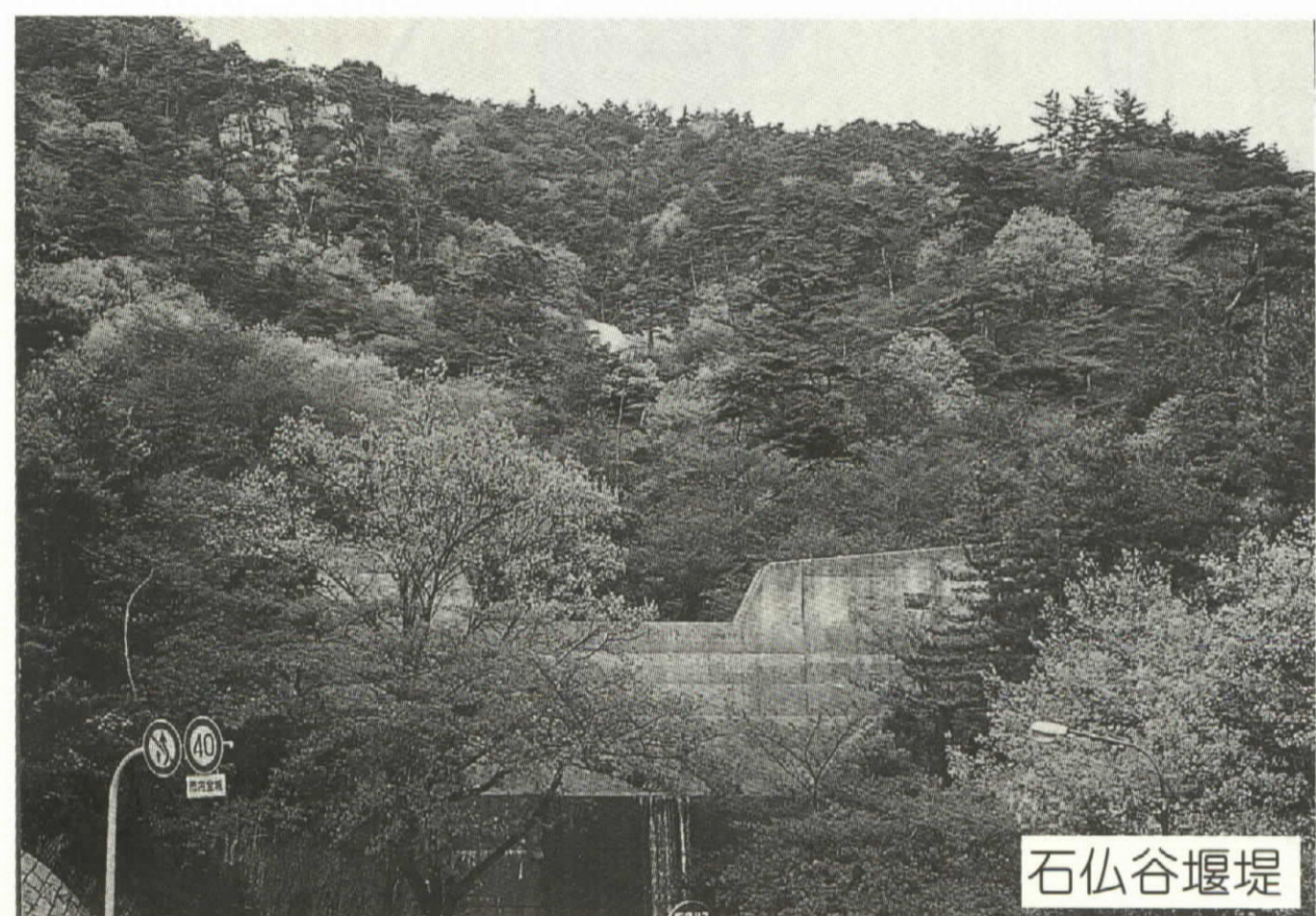
今一度 「わが家の備え」 再確認

土砂災害防止月間 6/1～6/30

「みんなで防ごう土砂災害」

梅雨時期の大雨、暴風雨の吹き荒れる台風、突然の集中豪雨、土砂災害、地震など様々な災害に対し、家族の安全と財産を守るための備えは大丈夫ですか？

日ごろから非常時に対する危機感を持つことが、被害を最小限にとどめる第一歩となりますので、わが家の備え、近隣の備え、地域の備えを今一度確認してください。



石仏谷堰堤



自主防災組織・中学生による水防訓練



砂防対策工法による整備区

大雨に注意!!

梅雨や台風シーズンは、必ずといっていいほど大雨が降り、人命や家屋・交通機関等に多くの被害をもたらします。

本市では、5年に1回程度の大雨(50mm/時間)による浸水をなくし、また計画降雨^{※1)}以上の降雨があった場合にも、浸水被害をより少なくするために下水道事業を進めているところです。

しかしながら、近年の都市化により、降った雨が地面にしみ込まずに下水管に流れ込む量^{※2)}が増えており、これに対応した整備を行うため、下水道工事に長い期間が必要となります。市民のみなさんのご理解を頂きますようお願いいたします。

過去の大雨降雨量(mm/分間)

順位	50分間	60分間	120分間	降雨年
1	85.5	100.5	138.0	平成元年9月豪雨
2	75.1	87.7	96.2	昭和13年阪神大水害
3	70.8	75.8	133.5	昭和42年7月豪雨
4	67.0	76.0	90.0	平成9年7月豪雨
5	55.5	56.5	60.0	昭和53年9月豪雨

過去の大雨降雨強度(mm/時間換算)

順位	50分を1時間に換算	60分を1時間に換算	120分を1時間に換算	降雨年
1	102.6	100.5	69.0	平成元年9月豪雨
2	90.1	87.7	48.1	昭和13年阪神大水害
3	85.0	75.8	66.8	昭和42年7月豪雨
4	80.4	76.0	45.0	平成9年7月豪雨
5	66.6	56.5	30.0	昭和53年9月豪雨

大正13年から平成14年までの降雨
神戸海洋気象台・芦屋市雨量計データによる。

平成9年7月13日豪雨(80.4mm/時間換算)では、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

注1)：本市では、最長の流達時間^{※2)}が約50分です。50分間あたりの降雨量を1時間に換算すれば、50mm/時間となります。

注2)：流達時間とは、降雨が排水区の最遠点から河川・ポンプ場に流下してくるまでの時間のことです。

注3)：降雨水量に対して、下水道管に流入する水量の比のことを、流出係数^{※3)}といいます。

下水道の役割

下水道管には、汚水を流す汚水管と雨水を流す雨水管、汚水と雨水を同じ管で流す合流管があります。汚水管の大きさは、水道の使用量により決められています。汚水管に雨水を流せば、雨天時に汚水マンホールが溢れてしまいます。また雨水管に洗濯水や建築工用のペイント・モルタル並びに汚水を流すと、放流先の河川の環境を破壊します。管の役割を守り正しい使用をお願いいたします。

雨水浸透施設の普及は安全なまちづくりに役立ちます。

本市では、流出係数を0.5とし雨水整備を行っています。近年、都市化により、屋根の面積が増加し、緑地の面積が減少しています。その結果、降った雨が一度に勢よく市街地に流れてくるようになっています。雨水浸透施設は、雨水の流出量や流下速度をゆるやかにし、ときとして起こる大雨による浸水被害を減少させ、安全なまちづくりに貢献します。また、地下への雨水浸透により大地を潤して、緑あふれる環境づくりに役立ちます。宅内雨水樹の浸透化、駐車場・ガレージの浸透式舗装など、ご協力をお願いいたします。

梅雨や台風時期には土砂災害に注意

梅雨時期の長雨や集中豪雨、台風など、まとまった雨が降るような時には、雨の降り方の変化に気をつけてみてください。

また、あなたの家の周辺のがけ、山、川などに普段と違った現象を見つけたら、土砂災害の前兆であることも疑ってみましょう。

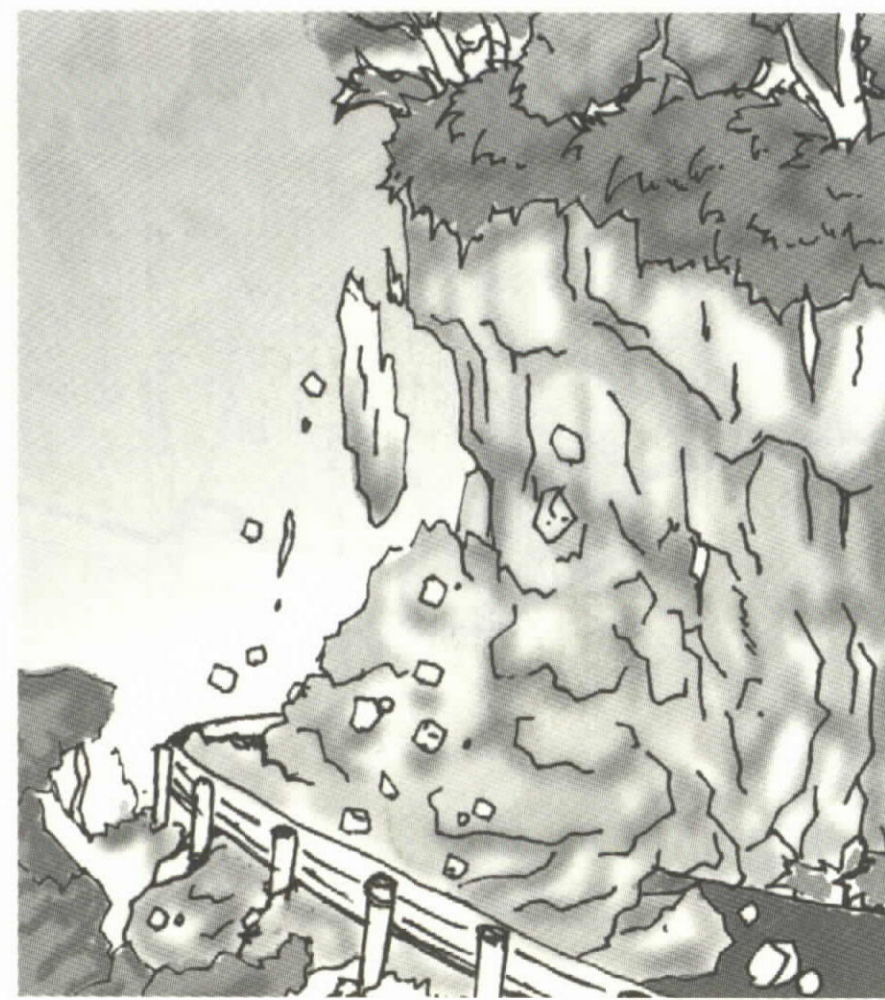
土砂災害の種類

土石流



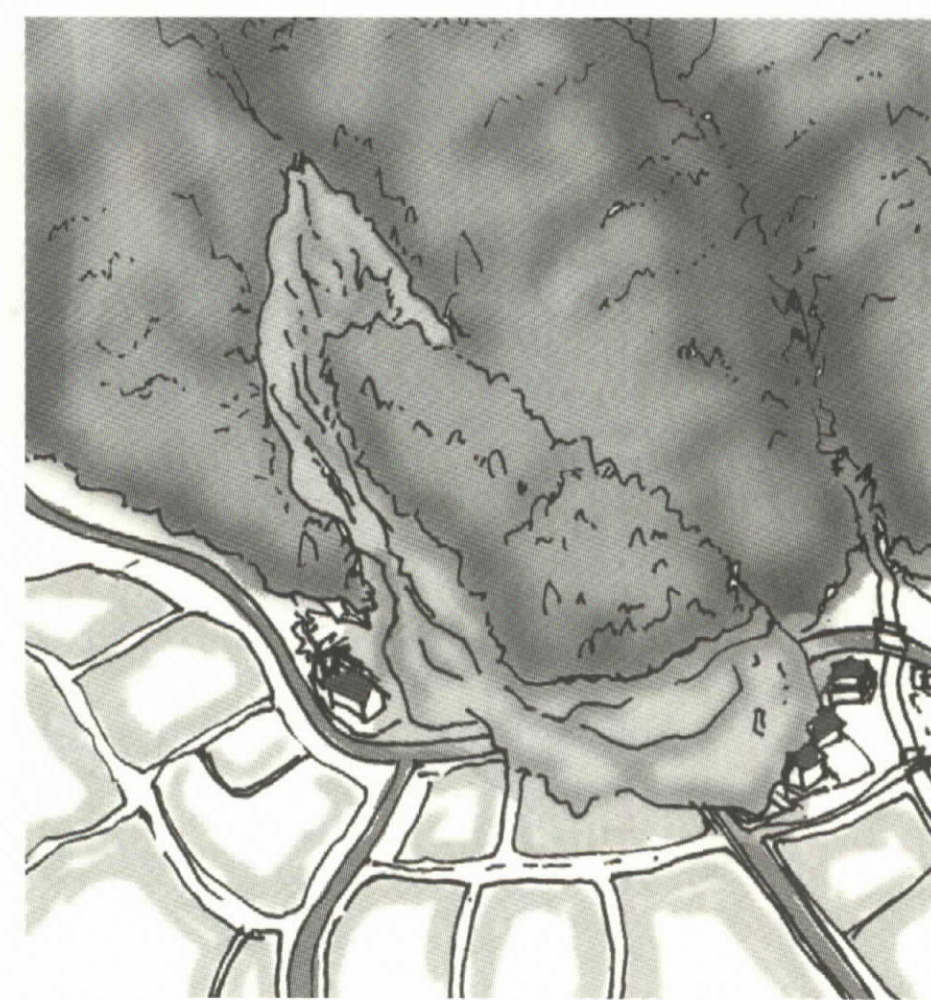
谷や斜面にたまった土砂が豪雨によって、水と共に津波のごとく一気に流れ出てくる。

がけ崩れ



大雨などによって、雨水がしみ込み弱くなった斜面が、突然、瞬時に崩れ落ちる。

地すべり



粘土層などで滑りやすく、比較的ゆるやかな斜面が地下水の影響でゆっくりとすべり落ちる。

前兆現象が起きたときは、早めに避難

- 山鳴りがする。
- がけからの水が濁る。
- 斜面にひびわれが入る。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- がけに亀裂が入る。
- 地鳴りが聞こえる。
- 川の流が急に濁ったり、流木が混ざり始める。
- がけから小石が落ちてくる。
- 斜面から水がふき出る。

地震・火災・風水害に備えて（命を守る・家を守るために）

家庭内では

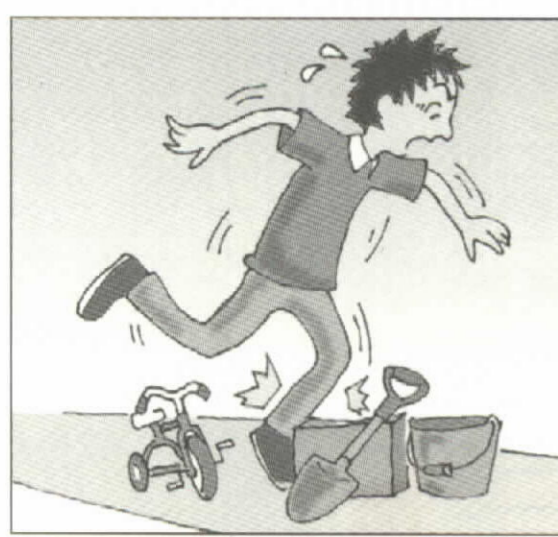
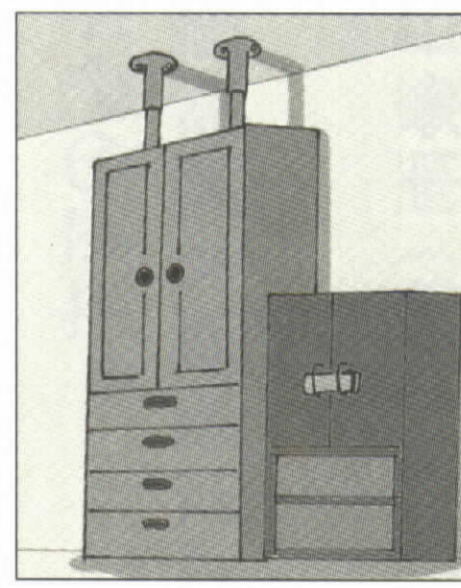
〇〇家族で会議を開こう〇〇

- 家族そろって災害について話し合い、
防災意識を高めよう。
- ◆ 避難所はどこか。避難経路はどこを通るか。
 - ◆ 家族はどこに集合するか。
 - ◆ 家の周囲の危険箇所はどこか。
 - ◆ 誰が何をするのか、役割分担を明確に。

〇〇情報を集めよう〇〇

- 台風や豪雨などは、規模や襲来時期が
ある程度予測できます。
- ◆ テレビ・ラジオ・インターネットの天気予報やニュースで注意報や警報などをチェックしましょう。
 - ◆ 風水害・土砂災害の被害は、地形と深い関係があるため、過去の被害状況が役立ちますので、昔から住んでいる人に話を聞いてみましょう。

- タンス・調度品など、大型で重い家具には、転倒防止措置をする。

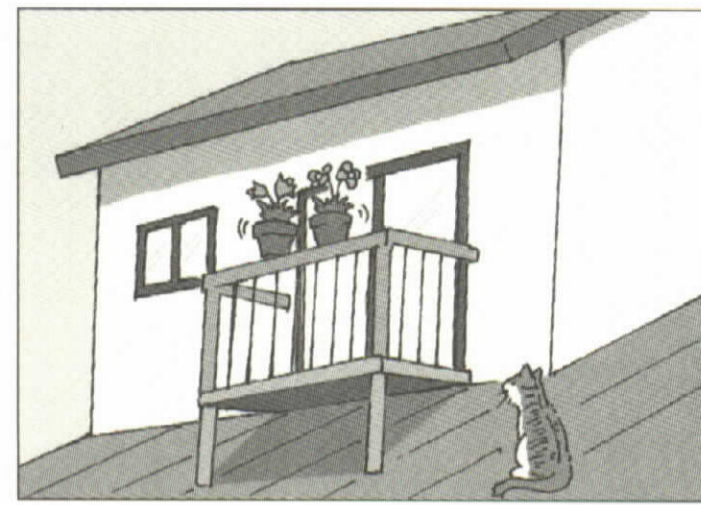


- 寝室の枕元には懐中電灯や、いざというときに履くスリッパを常備する。通路や廊下に行方を妨げるものは置かない。

- ガスこんろの安全装置（元栓）を確認し、火元の回りには燃えやすいものを置かない。

- 風呂の残り湯はすぐに捨てないでためておく。

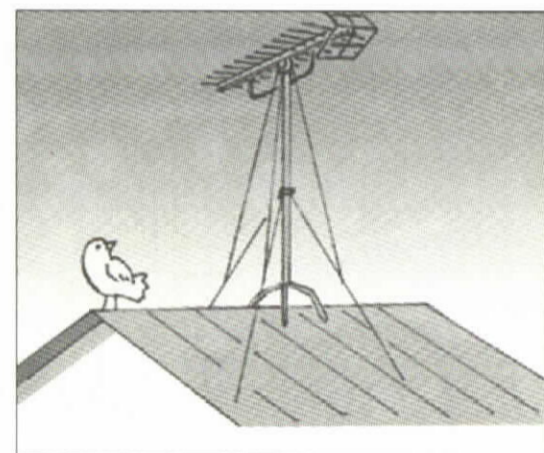
- 食器棚・扉や窓のガラスには飛散防止フィルムをはる。



- 鉢やプランタなど、落下しやすいものはベランダに固定するか屋内へ取り込む。

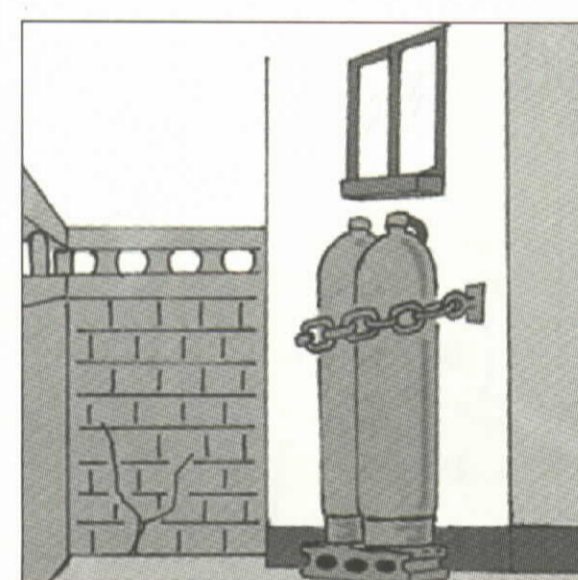
屋外では

- 屋根に設置したテレビなどのアンテナはしっかりと固定されているか確認する。
- 家のまわりやガレージなどには、燃えやすいものを放置しないように注意する。
- 雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目の外れや腐りがないか確認しておく。



- 屋外に設置しているガスボンベの配管にゆるみがないか、留め金やチェーンに損傷がないか確認する。

- 屋根瓦や、塀・門柱などにひび割れや破損箇所がないか確認し、基礎などがグラついている場合は普段から補修しておく。



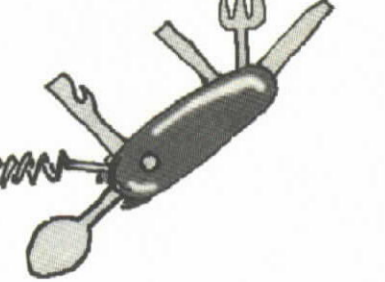
万一のときに備えて、非常時の持ち出し品を準備しておきましょう。

リュックや荷物の重さは？

- ◆ 非常時の持ち出し品は、
男性で15kg
女性で10kg
を目安に準備しておきましょう。

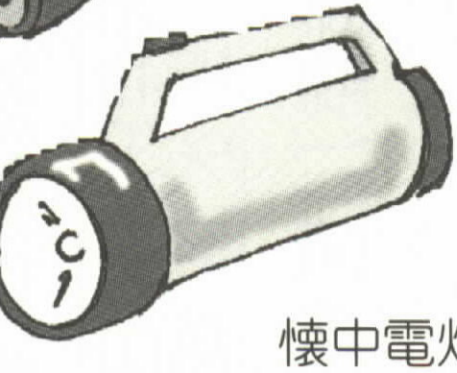
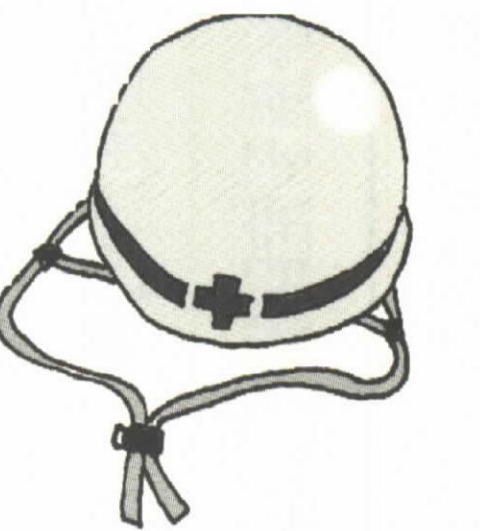


サバイバルキット

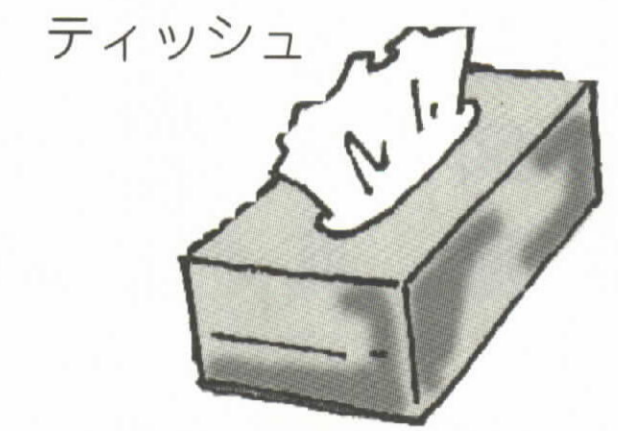


非常時持ち出し品

ヘルメット、又は、頭を保護するもの



懐中電灯



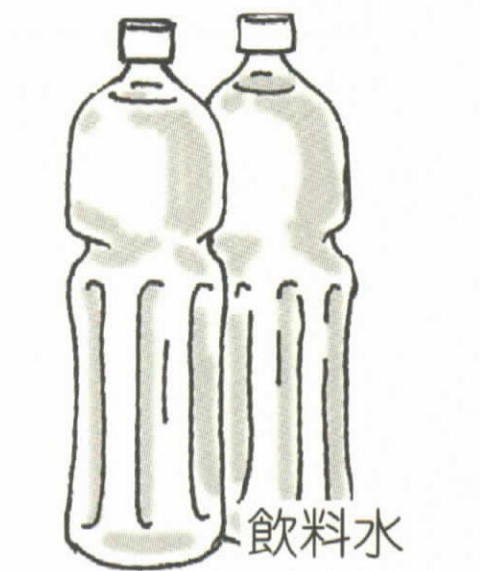
ティッシュ



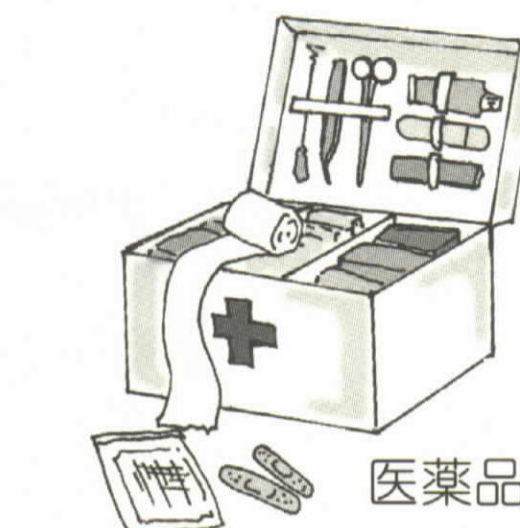
貴重品



食料



飲料水



医薬品



タオル



携帯ラジオ



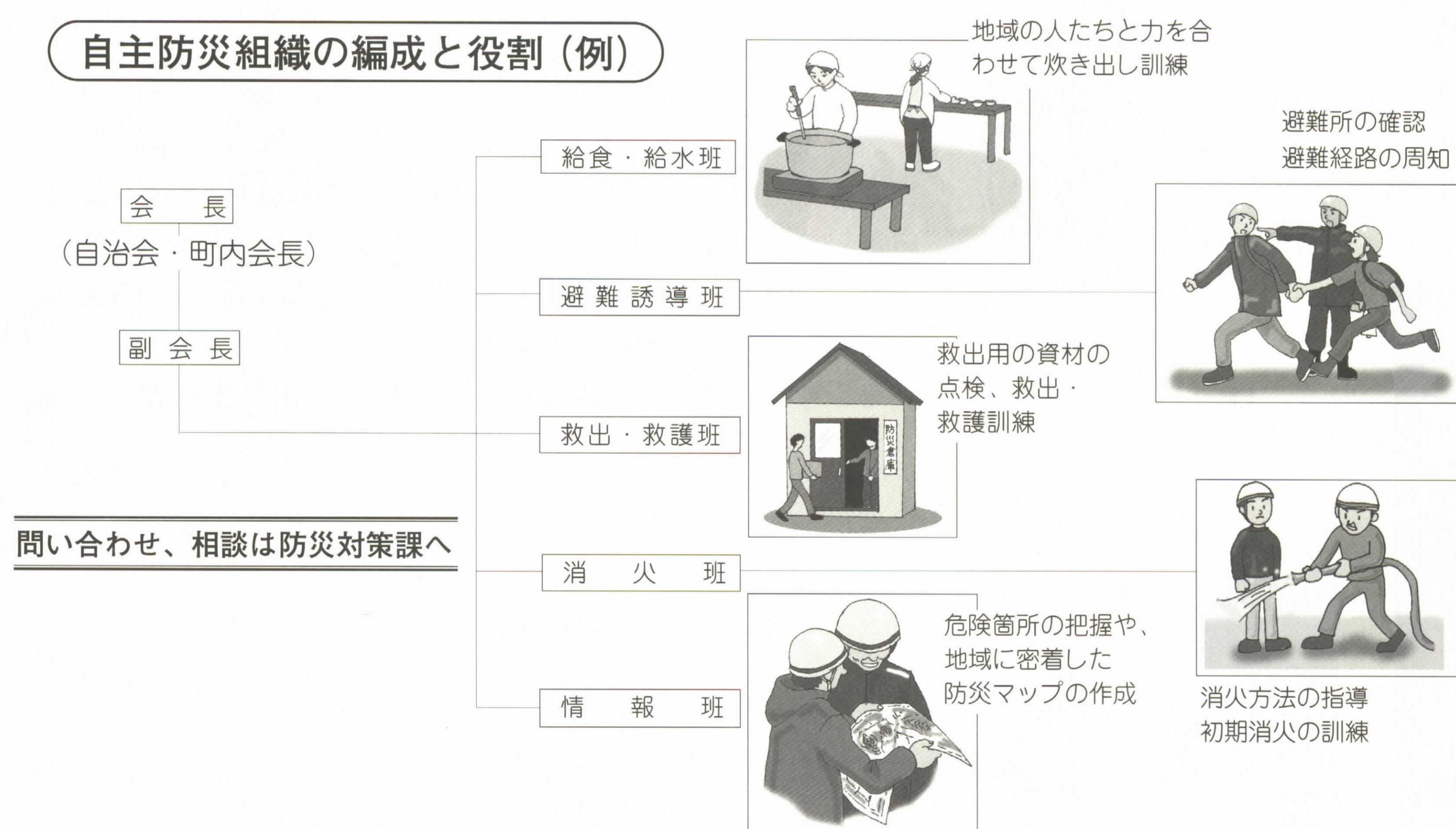
衣服・下着

地域では

安全で安心して暮らせる地域をめざして 自主防災組織をつくりましょう。

「いざというとき」は自分自身の安全は自分が守る。1人よりは家族で、家族よりは隣近所で助け合えばもっと効果があがります。そうした助け合う気持ちがあれば、被害を最小限にとどめることもでき、安全で安心して暮らせる災害に強い地域ができます。

自主防災組織の編成と役割（例）



防災倉庫を活用しましょう。

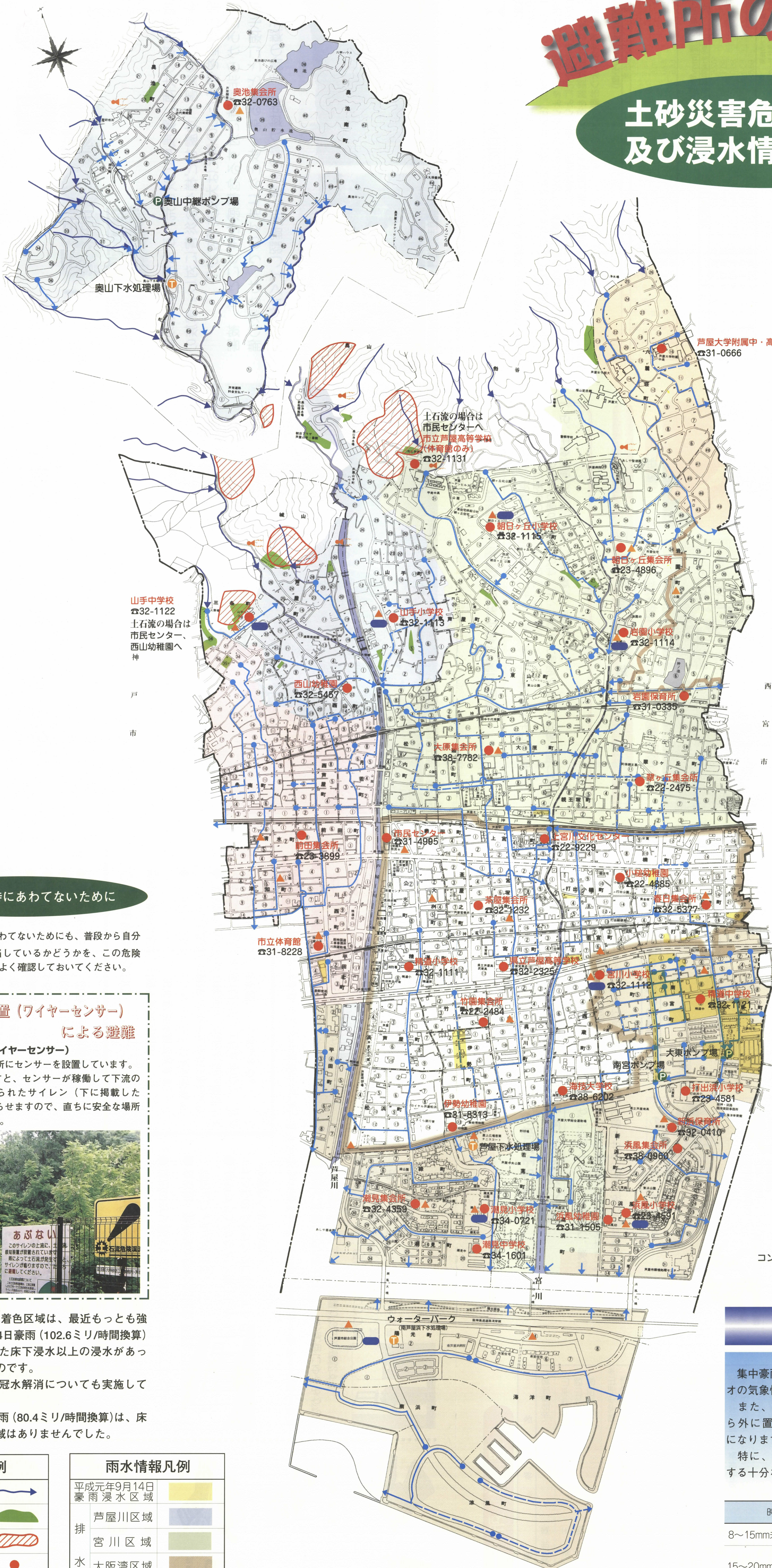
裏面地図上に記載している防災倉庫（▲印）には、災害時に市民の方々が利用できる小型ポンプ（初期消火用）、バールや担架（救助用）、炊飯装置やテント（救護用）の資機材を備えています。資機材の取り扱いを全ての人が覚える必要はありませんが、地域の人材で相互に活用できるようにすることも大事です。また、災害時にのみ活用するのではなく、普段から地域の行事、催し物等で使用し、なれ親しむようにしましょう。

避難所一覧表

名称	所在地	電話番号
奥池集会所	奥池南町 34-4	32-0763
山手中学校	三条町 39-10	32-1122
西山幼稚園	西山町 22-15	32-5457
前田集会所	前田町 8-17	23-3899
※山手小学校	山手町 8-3	32-1113
市立芦屋高等学校（体育館のみ）	劔谷 9	32-1131
大原集会所	大原町 20-2	38-7782
市民センター	業平町 8-24	31-4995
上宮川文化センター	上宮川町 10-5	22-9229
朝日ヶ丘小学校	朝日ヶ丘町 10-10	32-1115
朝日ヶ丘集会所	朝日ヶ丘町 30-9	23-4896
※岩園小学校	岩園町 23-41	32-1114
岩園保育所	岩園町 2-18	31-0335
芦屋大学附属中・高等学校	六麓荘町 16-18	31-0666
翠ヶ丘集会所	翠ヶ丘町 9-15	22-2475
※精道小学校	精道町 8-25	32-1111
市立体育館	川西町 15-3	31-8228
茶屋集会所	茶屋之町 8-20	32-1232
竹園集会所	竹園町 5-6	22-2484
伊勢幼稚園	伊勢町 13-14	31-8313
宮川小学校	浜町 1-9	32-1112
県立芦屋高等学校	宮川町 6-3	32-2325
小槌幼稚園	打出小槌町 15-7	22-4885
海技大学校	西蔵町 12-24	38-6202
打出浜小学校	新浜町 8-2	23-4581
※精道中学校	南宮町 9-7	32-1121
春日集会所	春日町 13-17	32-5377
※浜風小学校	浜風町 1-1	23-4591
浜風幼稚園	浜風町 1-2	31-1505
浜風集会所	浜風町 3-2	38-0960
新浜保育所	新浜町 1-1	32-0410
潮見小学校	潮見町 1-2	34-0721
潮見中学校	潮見町 20-1	34-1601
潮見集会所	潮見町 7-1	32-4359
合計	34か所	※印は救護所設置避難所を示す。

避難所の所在地

土砂災害危険箇所図 及び浸水情報マップ



いざという時にあわてないために

災害が発生した時あわてないためにも、普段から自分の家が危険地域に該当しているかどうかを、この危険箇所図を参考にして、よく確認しておいてください。

土石流感知装置 (ワイヤーセンサー) による避難

○土石流感知装置 (ワイヤーセンサー)
特に危険な溪流7か所にセンサーを設置しています。土石流が発生すると、センサーが稼働して下流の市街地付近に設けられたサイレン (下に掲載した写真) で危険を知らせますので、直ちに安全な場所へ避難してください。



この **しんすい** 浸水着色区域は、最近もっとも強かった平成元年9月14日豪雨 (102.6ミリ/時間換算) で、道路冠水を除いた床下浸水以上の浸水があった街区を着色したものです。

雨水整備は、道路冠水解消についても実施しております。

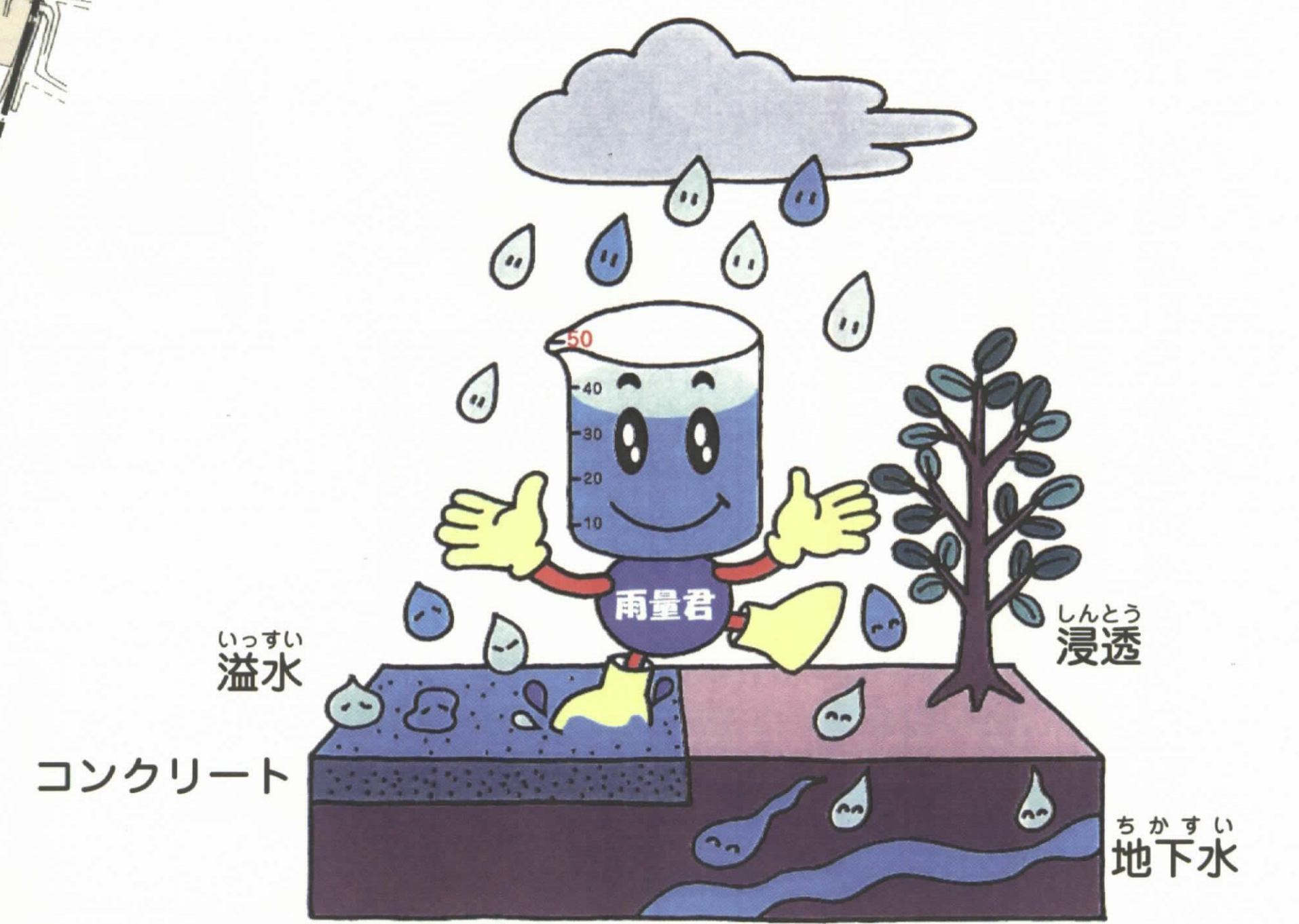
平成9年7月13日豪雨 (80.4ミリ/時間換算) は、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

凡	例
土石流危険溪流	
がけ崩れ危険箇所	
山地災害危険箇所	
避難所	
土石流サイレン	
防災倉庫	
飲料消費兼用貯水槽	

雨水情報凡例	
平成元年9月14日豪雨浸水区域	
芦屋川区域	
宮川区域	
大坂湾区域	
合流区域	
夙川区域	
傍宗川・津知川・森深江区域	
下水道整備済路線	
下水道整備予定路線	

本図は昭和63年4月に作製した基図を、平成15年4月に一部修正したものです。

人と自然にやさしい 雨水対策



雨の降り方に注意しましょう。

集中豪雨などによる浸水被害に備えるため、テレビやラジオの気象情報に注意しましょう。

また、開口部と底部の面積が同じ容器を雨の降り始めから外に置いておけば、その深さのミリ数が降雨量の目安になります。

特に、1時間に50ミリ以上の大雨の場合には、浸水に対する十分な警戒が必要です。

時間雨量の目安	降雨の状況
8~15mm未満 (やや強い雨)	雨の降る音が聞こえる
15~20mm未満 (強い雨)	地面一面に水たまりができる 雨の音で話が良く聞き取れない 寝ている人の半数ぐらいが気づく
20~30mm未満 (激しい雨)	どしゃ降りになり傘をさしても濡れる
30~50mm未満 (非常に激しい雨)	バケツをひっくり返したように降る
50mm以上 (猛烈な雨)	滝のように降る

